

令和5年度教職員等中央研修 コア研修 実施要項 (課題探究力の育成を目的とする研修)

1 目的

VUCAと言われる、変化の激しいこれからの時代を生きる子供たちには、自ら問いを立て、課題を探究し、他者と協働しながら人生を切り拓いていく力が求められる。教師にはこのような子供の力を引き出せるよう、子供を主語とした探究的な学びを展開することが求められている。

また、学校が授業改善や学校改善を持続的に進めていくためには、教職員集団の間で、目標達成に向け、組織的で探究的な議論や学びが繰り返されるよう、マネジメントを行う必要がある。

従来の教育で育った教師が、このような探究的な学びを展開する上で、教師自身が、学び手を主語とした探究的な学びを経験し、他者と対話し、自らの教育実践やマネジメント経験、教育観を振り返る中で、「探究するとはどういうことか」、「探究的な学びをつくるとはどういうことか」、理解を深めることが大切だ。

こういった考えのもと、本研修は、「自ら問いを立て、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開することで、自他の価値観を捉え直し、新たな問いや実践に向かう」持続的な探究プロセスを提供し、このプロセスを通して、課題を探究する力や、探究的な学びをデザインし、マネジメントする力といった、教師にとって中核的（コア）に求められている力を高めることを目的とするものである。

(※VUCA: Volatility・Uncertainty・Complexity・Ambiguity。不確実性が高く将来の予測が困難な状況であること。)

2 主催 独立行政法人教職員支援機構

3 共催 文部科学省

4 受講期間・標準定員・実施方法

(1) 1年コース（標準定員：50人）

| | | |
|-------|----------------------|------------------|
| 事前説明会 | 令和5年6月23日（金） | オンライン（または後日動画視聴） |
| ① | 令和5年7月31日（月）～8月2日（水） | 集合・宿泊 |
| ② | 令和5年11月16日（木）（1日） | オンライン |
| ③ | 令和6年2月21日（水）（1日） | オンライン |

(2) 2年コース（標準定員：80人（2人×40組））

| | | |
|-------|-------------------------|------------------|
| 事前説明会 | 令和5年9月11日（月） | オンライン（または後日動画視聴） |
| ① | 令和5年10月10日（火）～10月12日（木） | 集合・宿泊 |
| ② | 令和6年2月14日（水）（1日） | オンライン |
| ③ | 令和6年6月～7月（1日） | オンライン |
| ④ | 令和6年11月～12月（1日） | オンライン |
| ⑤ | 令和7年2月（1日） | 集合型 |

※本研修はインターバル開催であり、受講者はコース内の全日程参加を前提とする。

※オンライン説明会（90分程度）では、研修の主旨および事前課題等の説明と、質疑応答・簡単な協議の時間を設ける予定。当日参加できない受講者は後日動画視聴を行う。

5 実施方法・会場等 ※各日程の実施方法は「4 受講期間・標準定員・実施方法」を参照

(1) 集合・宿泊

会 場：独立行政法人教職員支援機構

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

(2) オンライン

Web 会議システムを用いた同時双方向通信によるリアルタイム・オンライン研修

(「Zoom ミーティング」(株) Zoom ビデオコミュニケーションズ) を使用)

配信元：独立行政法人教職員支援機構

〒305-0802 茨城県つくば市立原3番地

6 受講者

(1) 受講資格

ア 1年コース

幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等あるいは教育委員会等の指導主事等で、今後、教育実践において各地域の中核としての活躍が期待される者かつ、「探究的な学び」を主題として問いを立て、実践をしながら1年間、主体的に学ぶ意欲のある者

イ 2年コース

同じ学校の管理職および教諭等の2人1組で受講する。

○管理職

幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の校(園)長・副校(園)長・教頭等で、今後、学校経営において各地域の中核として活躍が期待される者かつ、現在の勤務校の学校課題について問いを立て、実践をしながら2年間、自校の教諭等と共に協働的に取り組む意欲のある者

○教諭等

幼稚園・小学校・中学校・義務教育学校・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教諭・主幹教諭・指導教諭等で、今後、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者かつ、現在の勤務校の学校課題について問いを立て、実践をしながら2年間、自校の管理職と共に協働的に取り組む意欲のある者

※「第5次男女共同参画基本計画」(令和2年12月25日閣議決定)を踏まえ、研修における女性教職員の割合を概ね25%以上とすることを、当機構として目標としている。女性の積極的な推薦について配慮すること。

(2) 推薦手続・推薦期限

各都道府県・指定都市教育委員会等においては、「研修システム」により推薦を行う。

ただし、中核市教育委員会においては、[様式1]により都道府県教育委員会に連絡し、都道府県教育委員会が「研修システム」により推薦を行う。

推薦期限：1年コース…令和5年5月31日(水)、2年コース…令和5年8月4日(金)

(3) 受講者の決定

各都道府県・指定都市教育委員会等からの推薦に基づき、教職員支援機構が決定し通知する。

なお、各回の標準定員を超過した場合には、受講者数を調整することがある。

7 研修内容

本研修は、教師に中核的（コア）に求められている、課題を探究する力や、探究的な学びをデザインし、マネジメントする力を高めることを目的として、教師自身の探究的な学びを提供するものである。

1年コースは、受講者が、「探究的な学び」を主題として自らの実践に関する問いを設定し、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開していくこととなる。

2年コースは、管理職と教諭等の2人ペアの受講者が、自校の学校課題について協働して問いを設定し、実践の振り返りや対話、知識の習得を重ねながら、実践を展開していくこととなる。

8 研修期間中の学習活動について

本研修は学校現場等での実践および、実践に伴う受講者の主体的な学習等を研修の一環とする。

受講者の学習を支援するため、教職員支援機構からは、動画・文書・学習用コミュニケーションツール等の様々な媒体により、受講者が自主的に学ぶことのできる情報の提供等を行う。

上記を踏まえ、受講者の推薦に当たっては、受講者が自主的に学習に取り組むことができる時間の確保等、受講者の研修効果を高める環境について配慮すること。

なお、詳細については、決定通知において通知する。

9 その他

- (1) 所定の課程を修了した者には修了証書を授与する。受講者推薦の際に、必ず受講者の氏名を確認し、正確に記入すること。
- (2) 実施方法が集合・宿泊の場合は、原則として教職員支援機構の宿泊施設を利用するものとする。
- (3) 集合・宿泊型研修時は、受講者が使い慣れたパソコン等を持参すること。
- (4) 実施方法がオンラインの場合は、Web会議サービス「Zoom ミーティング」（（株）Zoom ビデオコミュニケーションズ）を用いて同時双方向通信を行う。受講に当たっては、当該ソフトウェアのインストールや安定したインターネット通信環境の確保の他、相互に音声・映像をやりとりする協議等ができるよう、音声マイク・Webカメラ等の必要機器を備えた端末を、1人1台準備すること。
（2年コースの場合であっても、端末の準備は2人1台ではなく1人1台とすること。）
- (5) オンライン研修については、受講者が研修に専念できるよう、推薦者には適切な受講環境及び研修時間の確保等、特段の配慮をお願いする。
- (6) 本研修の受講に際し、特別な配慮が必要な者（障害、持病等）を推薦する場合は、事前に当機構に相談すること。

